

ふるさと講座・自然系(第4回目)

オジロワシ・オオワシ観察会

冬期間に飛来する代表的な渡鳥、オジロワシ・オオワシの観察会を開催いたします。別海町の自然にふれ、人間との関わりを学びたいと思います。ぜひ、ご参加ください。



●日時

平成20年2月16日(土)

●観察場所

風蓮湖・走古丹

●集合場所

郷土資料館または本別海地域センター

●講師 別海町郷土研究会会長 渡辺 昇 氏

●日程

- 9:00 郷土資料館前集合
- 9:30 本別海地域センター前集合
- 9:40~11:00 観察(風蓮湖・走古丹漁港)
- 11:00 現地(走古丹漁港)解散
- 11:15 本別海着、解散
- 11:40 郷土資料館着、解散

●対象者及び募集人員

20名

●申込み受付期間

平成20年2月15日(金)まで。
ただし、定員になり次第締め切ります。

●その他

当館または本別海地域センターのいずれかの場所に時間までに集合して下さい。車は当館でも用意しますが、自家用車での参加も可能です。また、双眼鏡をお持ちの方は持参してください。

●お申込み・お問い合わせ

当館まで、電話・FAX・e-mail でお願ひします。その際、車の利用(自家用車かあるいは当館の用意する車に同乗するか)と集合場所についてもお知らせ下さい。

観察ポイントの紹介など

★風蓮湖

風蓮湖の氷下漁では、地元漁師のみなさんがチカ・ワカサギ・ニシンなどを漁獲しています。周辺の森の木々にはオジロワシやオオワシをはじめカラス、トビなどが群れをなしてとまっています。

漁がはじまり網が引き上げられると雑魚などはそのまま氷の上に捨てられるため、それらを狙い一斉に鳥たちは飛び立ち、獲物の争奪戦を繰り広げます。年間で多いときは500羽のワシ類が越冬すると聞きます。以前の観察会では何百羽のワシが空中で旋回しワシ柱を作ったこともありました。

★走古丹

本別海から走古丹までの道は、鹿が多いことで知られています。何百というシカの群れを観察することができると思います。

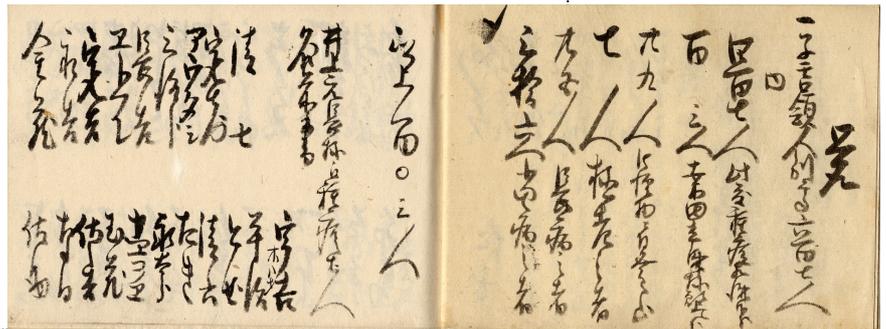
また、走古丹の港からは、氷の上で昼寝をするゴマフアザラシ達を観察することができますかもしれません。

史料「日記 ノツケ 伝蔵」

～根室場所のアイヌを天然痘から救った貴重な記録から I～

蝦夷地で和人の活動が活発になると、天然痘などの伝染病で死亡するアイヌが相次ぎました。幕府は、箱館奉行の要請を受け、安政4年（1857）2人の医師（桑田立斎・深瀬洋春）を蝦夷地に派遣し、種痘を命じました。

この「日記 ノツケ 伝蔵」は、根室場所で蝦夷通辞を務めていた加賀伝蔵が、場所内での種痘の様子を書き綴ったものです。伝蔵はアイヌに種痘実施の趣旨を伝え、種痘を嫌ったアイヌの説得にあたりました。また、医師とアイヌとの間に入り苦労したことなど、介在者の立場から公平に記されている貴重な史料となっています。



天然痘（てんねんとう とは天然痘ウイルスを病原体とする感染症の一つで、疱瘡（ほうそう）、痘瘡（とうそう）ともいう。）

天然痘は、世界中ではげしい流行をくりかえし、多くの人命を奪ってきました。日本には、仏教伝来の頃に入り、8世紀の奈良時代に流行し、東大寺の大仏様は、天然痘やはしかなどの伝染病がしづまることを願って造られたと言われていいます。一般の人だけではなく、天皇や将軍など身分の高い人々も天然痘に苦しみました。（醍醐天皇・後鳥天皇・源頼家・徳川家光・徳川吉宗など）

1796年にイギリスのエドワード・ジェンナーは、「牛痘種痘法」という最初の予防ワクチンを発明しました。日本には嘉永2年（1848）に長崎オランダ商館モーケニがジェンナーの開発した種痘（天然痘の予防ワクチンを接種すること）をもたらし、佐賀藩の医師榎林宗健と日本ではじめて種痘を成功させました。その後日本の医師たちは協力して種痘活動を広めていきました。

1980年5月8日WHO（世界保健機構）は、「世界天然痘根絶宣言」をしました。この年より前に生れた人の腕には1才になるまでの間に受けた種痘のあとが残っていると思います。

天然痘が根絶されたのは、今から28年前のつい最近のことです。「幕末にこの地方で行った種痘活動」とは、どういったものだったのでしょうか？ 来月号から「日記 ノツケ 伝蔵」より探してみたいと思います。

●参考・引用文献

- 「ジェンナーの贈り物」加藤四郎 1997
- 「桑田立斎先生」二宮陸雄 1998

郷土資料館のお知らせ（2月）

- 休館日 2日・3日・11日・16日・17日・25日
- 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 観覧料 一般個人 300円 一般団体（10名以上）240円 高校生以下は無料となります。

別海町郷土資料館だより No.103

発行日 平成20年2月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

「その時歴史は動いた」(NHK)で「緒方洪庵・天然痘との闘い」が、昨年放送されました。種痘活動の困難さが良く伝わる内容でした。この地方でアイヌの種痘活動を行った桑田立斎一門、そして加賀伝蔵の関係など、日本の歴史が身近にあるすばらしさを感じました。(石渡)